

編集後記

九月より、施設管理上の都合により、大衆文化研究センターで管理している資料の閲覧を休止しております。昨年度に引き続き、ご利用のみなさまにご不便をおかけして大変申し訳ございません。詳細につきましては、ウェッブサイトをご覧下さい。なお、旧乱歩邸の一般公開につきましては通常通り行っております。

この秋には、大衆文化研究センターが共催する公開シンポジウムが二件予定されています。一つは、一〇月七日(日)に開催予定の「新派再考——新派一三〇年記念シンポジウム」(一三時〜一七時、立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館カンファレンスルーム)です。乱歩原作「黒蜥蜴」などを上演している新派から俳優の喜多村緑郎氏、河合雪之丞氏、作家・演出家の斎藤雅文氏をお招きした座談会、神山彰氏の講演、後藤隆基氏、金子明雄氏の研究発表などのプログラムとなります。もう一つは、一月二五日(日)に開催予定の「江戸川乱歩のモダンティ」(二三時〜一八時、立教大学池袋キャンパス 一四号館D三〇一教室)です。今回の『大衆文化』でも、日本近代文学会春季大会におけるパネル発表要旨を掲載した、当センター

の資料などを活用した研究プロジェクトと関連する公開国際シンポジウムです。韓国より韓程善氏、米国よりセス・ヤコポーヴィッツ氏、大森恭子氏をお招きし、日本の浜田雄介氏を加えたパネルディスカッション(司会は当センター運営委員でもある川崎賢子氏)が行われます。どちらも参加費無料、事前予約不要ですので、奮ってご参加下さい。公開シンポジウムの詳細については、立教大学のウェッブサイトをご覧下さい。

『大衆文化』第十九号は、近世の俗文芸における「お竹大日如来」伝承の展開を考証した神林尚子氏の論文、戦時中の日本統治下のアジア地域を舞台にした二つの論文、すなわち、台湾における内地との時差撤台をめぐる議論とラジオとの関連を論じた井川充雄氏の論、毎日新聞北京支局発行の総合雑誌『月刊毎日』を取りまいた出版統制を論じた石川巧氏の論、そして岡崎京子のマンガ「ヘルタースケルター」を題材にした村松まりあ氏の論文、乱歩「人間椅子」を題材にした入山洗希氏の論文と、計五本の論文を掲載することが出来ました。大変充実した号になったと自負しております。今後も大衆文化研究に関わる研究成果を積極的に掲載して考えでありますので、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。